

優秀賞

自然と共に生きる

東京都立小山台高等学校 2年 飯田 凜太郎

人と自然が共生し尊重し合う。これが私の望む未来の形だ。近年SDGs等環境問題が注目されている。私も幼い頃から海が大好きでこの問題にはとても関心がある。

物心ついた時から私は魚や海に興味があり幼い頃から魚を調べたり水族館へ行ったりした。そんな中、小学校低学年の時に東京都八丈島に移住した。そこには美しい自然とそれらを大切に思う人々の姿が広がっていた。中でも海はとても美しく、ウミガメと泳いだり家からクジラを見たりと毎日海と共に生活していた。また漁業等も盛んで、島の人が自然を重んじ敬意を払って仕事をしていると感じた。そんなかけがえのない自然との暮らしが私は大好きだ。

東京に戻り都市部の生活が再び始まった際、私はどこか違和感を感じた。汚れた川や海、それを全く気にしない人々。悲しい現実が広がっていたのだ。だがそのような環境の中でも多くの生物は懸命に生き抜いている。その姿を見て「この現実を変えたい。」と私は強く思った。故に現在の都市河川や海洋環境の状況を知るために行動に出た。

小学生の時は地元の海洋保全活動を行っている団体に入り、近くの運河について学びつつゴミの掃除やカルガモの保全活動なども行った。そこから改めて都市河川が水質汚染の深刻な状況にあることがわかったと同時に、改善しようと行動する人はいるものの人数が少なく難しい状況にあることがわかった。加えて東京海洋大学において一般公開している講義や中高生向けのオンライン講義を受けた。これらの講義から東京都だけでなく日本全体の海が変わりサンゴの白化現象や水質汚濁、海水温上昇など多くの問題があると知った。だからこそ海洋問題を一つでも多く解決したいと強く思い始めた。

高校に入り、私は近所の運河の水質について研究した。特に注目し

た点はヘドロ問題の深刻さだ。ヘドロとは水底に溜まった有機物で水中の酸素の減少や悪臭を放つ原因にもなり日本全国の都市部近郊河川などに広がっている。また多くのヘドロは高度経済成長期に排出されたもので、自然な分解は難しく人為的な対処が必要である。しかし費用面等からヘドロ除去は積極的に行われていない。そこで私はヘドロ自体に価値がつけばヘドロの需要も高まり日本全体でヘドロ除去が積極的に行われるのではないかと考えた。後に現在九州大学で「ヘドロコンクリート」と呼ばれるヘドロを吸着固定化しコンクリートのようにする研究を知った。そこで私はヘドロコンクリートの活用において国民に認知され自然環境も改善する方法案を考えた。

そして生み出した案が「ヘドロコンクリート魚礁活用案」だ。魚礁とは人工的に作られ海底に沈められた魚の棲家で多くの海洋生物を集め保全することができる。これにより水産資源の回復だけでなく貝類や藻類、微生物の力で水質を浄化する可能性もある。何より私はヘドロが破壊した自然をヘドロコンクリートで回復することに意味があると思う。高度経済成長期、経済的な利点は大きかったが自然への代償は今も残っている。だからこそ今まで破壊してきたもので自然環境を改善していくことこそが環境問題解決の鍵なのだ。

このようにヘドロを活用することで水質問題を改善することに繋がる。私は環境問題を解決するためには人々がもっと自然に敬意を払い生活する必要があると思う。人間とは興味のあることに積極的に行動する生物だ。だからこそ自然に興味を持つことが敬意を払うための最初の一步だと思う。しかし汚れた自然に興味を持つことは難しい。そこでヘドロコンクリート魚礁等様々な方法で自然を回復することが美しい自然の維持に繋がるのではないだろうか。「自然と共に生きる」ことが永久的で持続的な未来のあり方である。これからも実現に向け大好きな海を研究し考え創造することが私の自然への愛の形なのだ。